

■「まちづくりを考える日」

13:50	グループ	順番	事業の名称	提案団体	公民館 区	協働・連携団体	事業概要	活動展示	フリー ペーパー
7 分 程 度	1	1	地域とともにある「子ども の居場所づくり」	NPO法人ス ペース	法吉	島根大学、NPO法人フードバ ンクしまねあったか元気便、薦 津地域	様々な背景をもつ子どもたちが安心して過ごせるもう一つの学びの場・居場所づくりを目的とし、学習支援・フリースクール・体験活動などを、島根大学ボランティア・自治会・企業など他団体と協力しながら活動を行う。	無	有
7 分 程 度		2	災害時における地域連 携について	意宇川沿線 地域災害対 応連絡会議	八雲、 大庭、 竹矢、 東出雲	松江市防災部	●意宇川の氾濫災害による被害を軽減する目的で、意宇川沿線地域相互間で情報の共有化を図ることとした。特に、適切な住民避難につなげるため、住民が沿線地域内の最も近いところへ避難できる体制を作った。 ●被害状況を共有することで、各地域の安全が図られるものである。事務局は、上流域である八雲町が調整役を務めることとしている。	有	無
7 分 程 度		3	SUPでつながる、島根 町の魅力創出事業	公益社団法人 松江青 年会議所	島根	島根支所、島根公民館、島根 町まちづくり協議会、WATER BRIDGE、REINBOW WAVE、SURF UP、TARBOARD JAPAN、NSP、 SAWARNASUP、LOCO BLUE、余 村板金株、居酒屋よっち、永 幸丸、漁友会、NPO法人浜田 ライフセービングクラブ、境 海上保安部、SWIFT、島根ト ヨベット松江店ほか協賛企 業・団体	地域の団体・関係者と連携し、島根町の地域資源を生かしたSUPをはじめとする水辺のアクティビティイベントを実施。2日間滞在型スポーツツーリズムとし、地域の様々な魅力に触れてもらい、地域の魅力化へ繋げることを目的としている。2年目を迎える本年度は、SUPA（日本スタンドアップパドル協会）公認のSUPレースを島根初開催したほか、初心者向けのSUP体験会やマルシェ、テントサウナ、SUPプールなど一般来場者向けのコンテンツを充実させた。資金面では、補助金のほかにレース参加者の登録料収入、企業・団体協賛から調達しており、松江青年会議所としては、地域の団体・関係者と事業継承を見据えた継続的なパートナー関係の創出を目指している。	有	有
7 分 程 度	2	4	松江ahaha！フェス ティバル	ahaha！	城東	てつなぎFIKA、城東公民館	6月2日「子育て世代と子育て世代を応援したい人が出会って繋がる みんなで作ろうたくさんの笑顔が溢れる場所」をテーマに松江市の中心部城東地区の旧県立プール跡地を利用しイベントを開催しました。飲食・ワークショップ・物販など50店舗以上の出店者が集まり、天気にもめぐまれ、5000人以上の来場がありました。人が集い、出会うことで繋がりを持ち、子育ての不安解消につなげる。そして楽しく賑わい明日を頑張る活力につなげ、人が元気になることで地域の活性化を図る。イベントが盛り上がることで若者が未来に、そして子育てに希望を持てる日にしたい！そんな想いで準備を進め、開催しましたが、イベント当日は皆さんが同じ想いで一体化となり、子供だけでなく親も。親だけでなく、子供も。会場全体がたくさんの笑顔で溢れていました。“松江の子育てに笑顔を” 私たちが活動するにあたり掲げている想いが叶った最高の1日となりました。	有	有

■「まちづくりを考える日」

13:50	グループ	順番	事業の名称	提案団体	公民館 区	協働・連携団体	事業概要	活動展示	フリー ペーパー
7 分 程 度	2	5	スーパーのない地域に 私たちの手で賑わいを 作り隊！	ちくや朝市 実行委員会	竹矢	武内神社、竹矢公民館	・前身は2018年「ちくやもんの手しごと足しごと」の名称で、地域の手足に技を持ったメンバーで農家さんと共に数店舗で スタート。 ・竹矢地域にはスーパーがない。コロナ禍の中で引きこもり、人との交流がなくなっていた当時、買い物難民である竹矢地 域の皆様に近場で楽しくお買い物をして笑顔になってもらいたい。地域の農家さんをはじめ、地元店舗を知っていただきた い。地域の皆様の交流の場になったら…とそんな思いで2021年に「ちくや朝市」と名称変更し、地元有志で実行委員会を発 足。 ・地元農家、地元店舗に声をかけ、今では他地域からも店舗が出店している。	有	有
7 分 程 度		6	高齢者の見守りを通じ た地域の防災活動	祖子分町内 会【祖子分 見守り隊】	川津	・町内防災隊 ・町内雪かき隊 ・なごやか寄り合い【祖子分 まめな会】	●市中心部に近い郊外集落（82戸）。近年、住宅等建設が進み新旧住民の混住化がすすむ。（町内会員20年で約3割増加） ●2012年に「祖子分防災隊」を結成後、防災備品の整備などを行い、2015年には防災倉庫を手づくりで建設し、35品目程度 の防災機器を備える。 ●2015年、市事業を活用し高齢者の「祖子分見守り隊」を結成。 見守りを中心に活動を実施。非日常を受け持つ防災隊とは違い、日常の活動を受け持っている。サポーター25名程度。 ●2017年には大雪時の対応のため除雪機を購入し、除雪ボランティア（16名）を組織し、町民の安心を担保している。 ●主な活動 見守り登録台帳の作成 サポーター募集と研修 日常の声掛け 非常時の安否確認 「緊急医療情報」の整備 など	有	無
7 分 程 度	3	7	入江の宝発掘プロジェ クト	入江区	八束	子ども会、高齢者クラブ、大 認 根島の農漁業を考える会、 定NP0法人自然再生セン ター、入江生産森林組合、三 所神社総代会	地元の石碑保全に合わせ、地域の歴史と伝統行事を子供達（その保護者世代も含め）に勉強会や体験会を開催し伝える。 復活出来る行事を現在の社会情勢に合う形に改善し、継承する事で地域住民共助体制の強化を図る。 石碑の改修工事 入江の歴史と伝統行事勉強会 京島に渡り勉強会とオゴノリ漁体験 相撲勉強会・子供相撲大会	有	有
7 分 程 度		8	JGKで市民によるまち づくり	「自分ごと 化会議in松 江」実行委 員会		実行委員会は大学生を含む多 様なメンバーから構成されて いる。会議の場には、各方面 の専門家や松江市の担当者 にも参加いただいた。クラウド ファンディングでは島根県の 仕組みを活用した。 「後援」は、松江市・松江市 教育委員会、島根大学はじめ 銀行、新聞社など多数の団体 から頂いている。	「自分ごと化会議」とは、まちの課題について、無作為で抽出された多様な住民が話し合う場である。専門家の話を聞くな どして情報を取り込みながら、課題解決に向けて提案書の作成を通して問題を自分ごととして考えていく。 完成した提案書は、市民への報告会の実施、松江市長や教育委員会への提出、子ども食堂の関係者への説明等を行った。学 校など、「子ども」や「食」に関わる場所にこれから広めていきたい。 「自分ごと化会議in松江」は2018年にスタートし、第1期に「原発を自分ごと化する」、第2期に「自然エネルギーってどげ かね？」をテーマとしている。松江は全国唯一の市民主催であることが特徴だ。 第3期は、実行委員会に学生が深くコミットした。「学校給食から『食』と『子ども』を考える」をテーマに会議を行い、 子どもオブザーバーとして給食現役世代の中高生も参加した。「給食」という身近なテーマであったため、各々の経験に基 づきながら子どもにとってよりよい食について様々な意見が出された。	有	有